

平成29年度 特別支援教育部会 アンケート 集約結果
集約数・・・北ブロック82枚、南ブロック94枚
計176枚

※ご協力ありがとうございました。アンケート集約結果です。皆様のご意見に対して事務局からの見解を載せましたので、ご覧ください。

1. 日程について

- a. よい (125) b. おおむねよい (34) c. 改善が必要 (7)

<意見>

- ① 夏季休業中ではだめなのか。
- ② 研究日が連日で（校内）、慌ただしかった。
- ③ 遠いところからは、慌ただしい（3）。
- ④ 移動時間も考えて、16時には終了することが望ましい。
- ⑤ 学芸会・学校祭で忙しくなる前でよい。
- ⑥ 開始時刻に半数しかいなかった。開始時刻を送らせてほしい。14時など（3）。
- ⑦ はじめの時間にゆとりがなくて、早く着いても待つ事になる。

<見解>

①～⑦

石教研へ意見として上げることとするが…。まず、年間行事予定を組む段階では「開始日時」は決まっていることである。学校行事や研修、また当日の日課などについては、それぞれの学校で工夫すべき問題だと思う。終了時刻も、勤務の関係でぎりぎりであると思うし、帰宅に2時間も3時間もかかるような場所での開催ではないと思われる。また、夏休みの開催で、はたして回答した方も含めてどのくらい集まるものなのか疑問である。

2. 研究内容について

- a. よい (146) b. おおむねよい (23) c. 改善が必要 (1)

<意見>

- ・とても勉強になった。
- ・他校の実践や市町村による違いなども聞くことができて良かった。

3. 分科会構成とワークショップ、(再編成後の研修)について

- a. よい (136) b. おおむねよい (20) c. 改善が必要 (1)

<意見>

- ・ワークショップ形式が初めてなので面白かった。参考になった（9）。
- ・少人数で課題交流ができて大変有意義だった（1）。
- ・特別支援の専門の先生の話が聞けて良かった。
- ・分科会で、ざっくばらんに悩みを話せて良かった。
- ・他校の実情を交流で聞くことが出来て良かった（2）。
- ・問題行動が多い子どもたちにどのように接していけば良いのか、考える手立てになった。
- ・事例提供の先生、ありがとうございました（3）。
- ① インシデント…の『グループのプラン』は、具体的に絞る方が良い。一つの効果的な方法を提案するのが目的だと思う。
- ② 記録は取るなくても良い。全体交流もやめて、交流に集中したい。
- ③ ワークショップの進め方の確認を、もう少ししてほしい。
- ④ レポート交流は児童の実態がはっきり分からないため、一般論的な話ししかできないので、あまり意味がない。
- ⑤ 分科会では、グループの人数に対して時間が足りなく残念だった。
- ⑥ 選択テーマがどれも関心があるので選びにくかった。

<見解>

- ①グループで一つにまとめるようになっていたが、・・・。
- ②記録を元に、交流内容の全体への還元も、大きな集会だからこそ必要だと考える。
- ③善処したいが、説明に時間を掛けすぎたくもない。プリントの配布などで対応したい。
- ④どの部会も同じではないか。具体的なことは口頭で交流されたい。
- ⑤⑥活発な論議が出来たものにとらえたい。第3分科会のテーマは再検討していきたい。

4. 運営体制について

- a. よい (147) b. おおむねよい (19) c. 改善が必要 (0)

<意見>

- ・タイマーを使うのが良かった。
- ・運営委員の皆さん、準備・運営ありがとうございました。

5. レポートについて

- a. よい (114) b. おおむねよい (44) c. 改善が必要 (7)

<意見>

- ・色々な意見が出されてとても参考になった。明日からでも実践したい (4)。
 - ・様々なレポートがあって良かった (2)。
 - ・通常学級と特別支援学級との関わり合いについて学べた。
 - ・難しいことに取り組んでいるのは自分だけではないと、励みになった。
 - ・その子の長所にスポットを当てて支援を考える。再考させられた。
- ①全員提出でなくても良い (2)。
 - ②全員提出されず残念。
 - ③事例 (特定の児童) が細かく載っているのには配慮すべき。
 - ④何かしらの形式があると良い (2)。
 - ⑤困り感のある児童・生徒への支援や手立て (校内での支援体制・関係機関との連携) についてテーマを設けると良い。
 - ⑥データ化できると良い。
 - ⑦テーマを絞った方がよい。
 - ⑧テーマを絞らない方がよい。
 - ⑨レポート交流の時間も少し取れると良い (4)。
 - ⑩講演会などが良い。

<見解>

- ①②次年度は講演会を計画するが、各学校の現状を交流できる貴重な場なので、次年度も前半はレポート交流を行う (レポート作成が基本となっているはずなので)。提出方法は、個人・学校の別は問わない。
- ③事例に児童生徒の実名は載っていないと思うが、細かい事例は一般化するなどの配慮は必要だと思われる。
- ④形式に縛りをつけると、書きづらい内容もあると思う。自校の実情に応じたレポートとして、今後も特に形式は定めずに幅広く出してもらいたい。
- ⑤1~3の全てにつながるテーマであるため、そのうちのどれについて参加するかを絞ってもらいたい。どちらかという、3に近いのでは。
- ⑥人数および枚数を考えると、難しいのではないかと。個人情報に関わる内容もあるので、データ化した故の情報漏洩も懸念される。
- ⑦⑧テーマを絞らずに自由にしてしまうと、課題部会の意味がなくなってしまう。この3つのテーマが最低限の区分けではあるが、次の期に向けて検討はしていきたい。
- ⑨上記に合わせて、時間配分も考えたいが、最後が決まっている以上厳しい。
- ⑩次年度行うが、レポート提出は必須 (①②参照)。

6. 講演会で聞きたいこと

- ①具体的な高校卒業後の進路が知りたい。自立できるのか、家庭は持つことができるのかなども含めて（27）。
- ②選考試験の内容、I型・II型の違い、高校生活に求められるもの、入学までに身につけておかなければならないこと、療育手帳の必要性など（21）。
- ③校内生活・学習の進め方・授業内容・寮生活など、実際の高校生活と指導。（9）。
- ④通常と支援と迷っている生徒・保護者への進路指導の仕方のアドバイス（2）。
- ⑤中学校（通常・支援）からの進学率。
- ⑥通常からの進学する際の理由として多いもの。
- ⑦（在籍が）続く生徒と続かない生徒の違いについて。
- ⑧本人・保護者への入学に関する意識付けをどうしていけば良いか（3）。
- ⑨小→中→高→大→就職という流れ以外の就労のモデルケースがあれば教えてほしい。
- ⑩通常からの進学の際の条件、入学後に予想される困難さ。
- ⑪生活科がなくなってからの指導内容の変化。
- ⑫IQ50～60くらいの生徒・保護者は、高等支援は厳しいのか。
- ⑬暴言を吐いたり、作業を全くしない生徒にどのように接しているのか。
- ⑭入学後に伸ばせる力。
- ⑮ユニバーサルデザインの実践について。
- ⑯小・中・高の連携をどうとっていくか。
- ⑰大通高校などの「高校での通級指導」。

<見解>

時間が正味80分と短いので、講演依頼をするテーマとして

（1）高等支援学校とは？

- ①どんな子が入学できるのか。その条件と選考試験の内容
- ②入学後の学校生活～通常高校との比較
- ③卒業後の進路、考えられる自立の仕方
- ④進路を迷っている子や親へのアドバイス

以上のようなテーマで話をしてもらってはどうかと考えている。講師をお願いしている学校と、次年度に向けて詰めていきたい。

7. その他

<意見>

- ・事例提供の先生、頑張ってください。
 - ・初めてでしたが、来年度も参加したいと思えた部会だった（4）。
 - ・運営委員の皆さん、ありがとうございました（16）。
 - ・楽しくためになる研修だった（7）。
 - ・二部構成が良かった。
 - ・同じようなことを思っている先生と共感が出来て良かった（2）。
 - ・校内支援体制について良い交流が出来た。学校によって人の配置や児童の実態が違うものの、限られた時間や人の中で様々な機関や人とのつながりをもつことが大事だと感じた。
- ①合理的な配慮の例が知りたい。
 - ②小グループでの意見交流では、意見の多様性が狭い。
 - ③参加名簿がほしかった。同じグループの先生や発言した先生の名前が分からなかった。

<見解>

- ①様々な分科会レポートの中に、つながる内容も含まれている。これ一つをテーマとして取り上げるのは難しい。
- ②全体交流では、意見が出にくい。この方式で続けたい。
- ③個人情報のため、また、人数が多いため配付する予定はない。せっかく集まったのだから、同じグループ同士で名前を聞き合っ、コミュニケーションをとっていただきたい。